

[資料] 寺廟に残された台湾の歴史地震

-1848 年(台湾)彰化地震の跡-

修平科技大学 観光與創意学院 応用日語系* 塩川 太郎
建国科技大学 生活科技学院 応用外語系† 林 麗華

The historical earthquake that was left in temples in Taiwan - Trace of the 1848 Changhua Earthquake -

Taro SHIOKAWA

Department of Applied Japanese, Hsiuping University of Science and Technology
No.11, Gongye Rd., Dali Dist., Taichung City 412-80, Taiwan

Li-Hwa LIN

Department of Applied Foreign Languages, Chienkuo Technology University
No.1, Chieh Shou N. Rd., Changhua City 500, Taiwan

The Changhua Earthquake occurred in December, 1848. It was the most destructive earthquake damage in the 19th century in Taiwan. In this research, we investigated whether records of earthquakes are left in reconstruction monuments or historic monuments, etc. in the temple in Changhua County. The result showed that there are mainly 5 records of the Changhua earthquake were found, three in Changhua City, one in Lukang Township and one in Fenyuan Township (Zhen-an Temple, Ximen Fortress Temple, Yuanching Temple, Xingan Temple, Baozang Temple), respectively. The monument of Yuanching Temple was a stone monument, but everything else was a wooden monument. These were weathered and some monuments were badly preserved. It also suggested that there are also some monuments that have not been found yet. Therefore, the investigation of the monument and appropriate maintenance and management are urgent tasks in the future.

Keywords: 1848 Changhua Earthquake, Reconstruction Monuments, Temples, Taiwan

§ 1. はじめに

これまでの調査により、台湾では 1906 年梅山地震、1935 年新竹-台中地震及び 1999 年 921 大地震(集集大地震)において複数の地震記念碑が設置されたことが明らかとなった[塩川(2014, 2015a, 2015b, 2016)]. これらは各々保存状態に差はあるものの、現在も維持され、当時の災害の様子や復興の過程を知ることができる。しかし、地震記念碑が建てられたのは全て日本統治時代以降であり、それより前に発生した被害地震では、地震に関する記念碑は知られていない[何(2001), 曾(2003)].

一方、地震記念碑とは別に、台湾の寺廟では修復・改築の際に設置する重建碑(再建碑)や寺廟の歴史を記した沿革碑に過去の災害について記されて

いる場合がある。例えば、日本統治時代に発生した 1935 年の新竹-台中地震では、苗栗県卓蘭鎮の峨崙廟の重建碑や、台中市神岡区にある林氏祠堂の碑に、この地震で受けた被害と修復について書かれていた[塩川(2018)]. これらは地震記念碑ではないため、多くの人々には知られていないものの、地震被害の記録の一つと言える。そのため、記念碑が見つかっていない日本統治時代より前の被害地震においても、被害の様子や復興の記録が残されている可能性がある。

今回の対象地震である彰化地震(推定 $M_L7.0$, 震源の深さ 10km)は、1848 年 12 月 3 日(道光二十八年十一月八日)に台湾中部の彰化県北部で発生し

* 〒412-80 台湾台中市大里區工業路 11 號

電子メール: kuwataro@hust.edu.tw

† 〒500 台湾彰化市介壽北路 1 號

電子メール: lihwa@ctu.edu.tw

た被害地震で、19 世紀の台湾で最も甚大な被害が生じた地震として知られている[鄭・葉 (1989), 鄭・他 (2002)]. この地震では彰化断層 (36km)と大甲断層 (30km)が動き、現在の彰化市から鹿港地域を中心に 22000 軒以上の建物が全壊し、約 1000 人の死者が出ている[鄭・他(2012)]. 12 月 18 日にも大きな余震も起こり、被害が生じた. この彰化地震により被災地の寺廟では損害が生じ、修復や再建を行ったと考えられる. 台湾の国立自然科学博物館の館報によると彰化県内のいくつかの廟において、彰化地震を回顧できる碑や跡が残されていることが紹介されている[蔣(2015)]. しかし、これは短い紹介文であり、碑文の内容など詳細なことは記されていない.

そこで本論では清朝統治下の 1848 年彰化地震に着目し、地震の被害が大きかったと考えられる彰化県内の寺廟において、重建碑や沿革碑等に地震の記録が保存されていないか、台湾の歴史地震の史料として残すことを目的に調査を行った.

§ 2. 彰化地震の記録が見られた寺廟



図 1. 1848 年彰化地震の記録が見つかった寺廟
①彰化鎮安宮 ②彰化西門福德祠 ③彰化元清觀
④鹿港興安宮 ⑤芬園寶藏寺

Fig.1 Temples with records of the 1848 Changhua Earthquake.

2017 年 1~2 月に彰化県内の 1848 年以前に造られた寺廟のうち地震の被害が知られている寺廟や地震

後に修復歴がある寺廟において重建碑等を調査した. 碑文の題により、重建碑と沿革碑に分けているが、どちらにも廟の再建や歴史について記されているため、内容に大きな違いは無かった.

この調査では彰化市で 3 か所、鹿港鎮で 1 か所、芬園郷で 1 か所の合計 5 か所の寺廟において彰化地震に関係した記録が見つかった(図 1).

2.1 彰化鎮安宮

(所在地:彰化縣彰化市永生里民族路 448 號)

彰化鎮安宮は、中国大陸からの移民が彰化を開拓した際に三山国王(中国広東省地域での信仰が多い神)を主神として 1738 年に創建された道教の廟である(図 2). 1848 年の彰化地震で大きな被害を受けたものの、長い間放置され、日本統治時代の 1931 年に大規模な修復が行われた.



図 2. 彰化鎮安宮

Fig.2 Zhen-an Temple in Changhua City.

(2017 年 2 月筆者撮影)

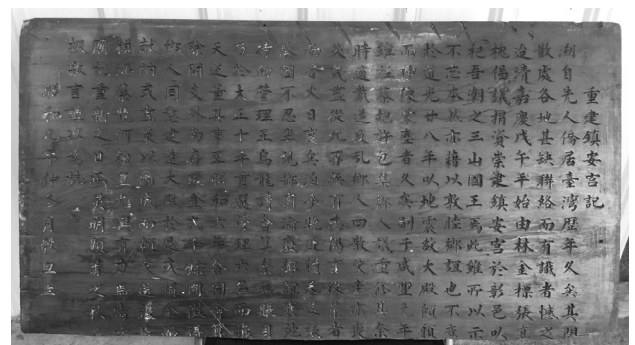


図 3. 彰化鎮安宮の重建鎮安宮記

Fig.3 Reconstruction Monument of Zhen-an Temple in Changhua City.

(2017 年 2 月筆者撮影)

ここでは「重建鎮安宮記」と「彰邑鎮安宮三山國王

廟沿革」の二つの碑に1848年の彰化地震のことが記されていた。

「重建鎮安宮記」は1848年彰化地震の被害と修復過程が書かれた重建碑(木碑, 縦48cm, 横88cm: 1934年設置)である(図3)。この碑は2013年の廟の改築の際に取り外され(その取り外しの際に碑の下部が数cmほど欠けてしまったようである), 現在は廟の管理事務所の倉庫に保管されている。

<碑文1>

重建鎮安宮記

溯自先人僑居臺灣歷年久矣其間散處各地甚缺聯絡而有識者憾之迨清嘉慶戊午年始由林金標張真槐倡議捐資崇建鎮安宮於彰邑以祀吾潮之三山國王焉此雖所以示不忘本然亦藉以敦睦鄉誼也不意於道光廿八年以地震故大殿傾頽而神像蒙塵者久嗣于咸豐元年雖經蔡抱許包集鄉人議重修其奈時適戴逆反亂鄉人四散父老亦喪失幾盡從此再無有志倡言改築者而香火日衰矣泊乎晚近賴天送張葵因不忍坐視鄉廟淪廢鄉誼衰弛特向管理王烏龍請會算奈無賬目乃於大正十年重選管理六名而推天送董其事至昭和六年合同會算除開支外尚存殘金式千餘圓徵得鄉人同意建造大殿於是或捐金而獻納或畫策以圖成而賴天送張葵賴海蔡龍河賴星尤與有力焉當茲廟貌重新之日正靈明顯著之秋爰掇數言謹以為誌

昭和九年仲冬月穀旦立

<碑文1 日本語訳>

重建鎮安宮記

先祖が台湾に移住してきてからの歴史は長い。今では各地に散らばり、連絡が途絶えてしまい残念である。嘉慶戊午年(1798年)に林金標と張真槐が募金して鎮安宮を再建し、私たちの三山国王を祀った。初心を忘れず、御利益でみんな仲良くできますように願った。

しかしながら、道光廿八年(1848年)の地震で廟の大殿が傾き、神像が放置された。その後咸豐元年(1851年)に蔡さんと許さんが、町の人と修復の相談をした。しかし彰化県の戴潮春の乱(1862-1865年)によって町の人々は散り散りになり、お年寄りの人もいなくなった。その後も再建する有志が現れず、修復の話が無くなってしまった。

月日は経過し、町の廟が廃れて、みんなの仲が悪くなるのを見るに堪えなくなった賴天送と張葵因が、廟の管理組合に修復の予算を申し出たが、組合には

そのような余裕がなかった。大正十年(1921年)に6名の管理者が再選された。修復について上(恐らく総督府の意味)に報告した。昭和六年(1931年)に二千円余りの予算ができた。町の人々の同意をもらい、大殿を建設した。賴天送、張葵因、賴海、蔡龍河、賴星の力で、献金、奉納、計画、手伝いなどが行われ、出来上がった。

再建できて神の魂が来た秋の日に、上記のことを書き記した。

昭和九年(1934年)十一月吉日

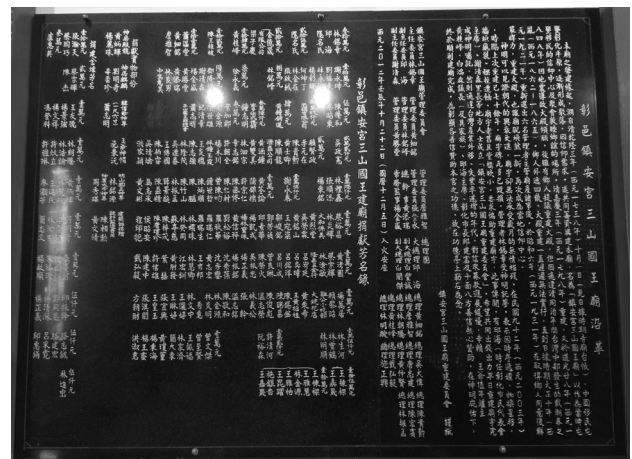


図4. 彰化鎮安宮の彰邑鎮安宮三山國王廟沿革
Fig.4 Historic Monument of Zhen-an Temple in Changhua City.

(2017年2月筆者撮影)

「彰邑鎮安宮三山國王廟沿革」は、2012年の廟の改築の際に廟内に取り付けられた沿革碑(石碑: 縦133cm, 横175cm: 2012年設置)で、地震の内容も含めこれまでの廟の歴史が記されている(図4)。

<碑文2>

彰邑鎮安宮三山國王廟沿革

本廟之肇建緣起, 朔自清乾隆三年(西元一七三八年)十月一日(見日據時期寺廟台帳), 清嘉慶三年(西元一七九八年)重建, 又於道光廿八年(西元一八四八年)因地震導致大殿傾頽, 後雖有鄉人提議重建大殿, 但因適逢清同治年間台灣中部發生的戴潮春之亂(西元一八六二-一八六五年), 鄉人外逃四散, 大殿重建一直遲遲無法實行, 直至日據時期大正十年(西元一九二一年)重新選出六名管理者主管廟產諸事後, 於昭和六年(西元一九三一年)在取得鄉人同意後群策群力, 重建大殿, 也讓廟貌煥然一新, 再次成為當地信仰中心。

(以下、日本統治時代～現在までの沿革内容のため省略)

<碑文 2 日本語訳>

彰化鎮安宮三山國王廟沿革

本廟の始まりは乾隆三年(1738年)10月1日(日本統治時代の寺廟台帳より)で、嘉慶三年(1798年)に修理したが、道光廿八年(1848年)の地震が原因で大殿が傾いて壊れた。その後、地元の人々が大殿の修復を提案した。台湾中部で発生した戴潮春の乱(1862-1865年)で、地元の人々が逃げ、大殿の修復は実行されなかった。日本統治時代の大正十年(1921年)に6名の管理者を選び直し、廟を管理した。昭和六年(1931年)に地元の人々の同意と協力を得て、大殿を修復した。そのため、廟の外見は立派になり、再び地元の信仰の中心となった。

2.2 彰化西門福德祠

(所在地:彰化縣彰化市富貴里中華路 243 號)



図 5. 彰化西門福德祠

Fig.5 Ximen Fortress Temple in Changhua City.

(2017年2月筆者撮影)

彰化西門福德祠は、彰化市の西門(清朝統治時代に彰化の街を囲む城壁が造られ、東西南北に大門があった)付近に建てられた福德正神(土地公)を主神とする道教の廟である(図 5)。創建年は資料が無いため定かではないが、修復歴のある1781年以前であることが分かっている。日本統治時代の市区改正時に道路拡張のための移動があり、現在は中堂のみが残されている。

神像が置かれた部屋の左右の壁に木製の重建碑

(木碑、縦 188cm、横 47cm:1881 年設置)がある(図 6)。主神の右側には 1848 年彰化地震の被害と修復について記載があり、左側はその修復時の寄付者名が記されている。碑は焼香の煙で黒く変色していたが、碑文は拓本により読み取ることができた。



図 6. 彰化西門福德祠の重修福德祠碑記

Fig.6 Reconstruction Monument of Ximen Fortress Temple in Changhua City.

(2017年2月筆者撮影)

<碑文 3> 主神右側

大西門

重修 福德祠碑記

禮有之共工氏之霸九州也其子曰后土能平九州故祀以為社是社之崇祀由來久矣我西門福德祠不知昉於何時建於何人僅留殘碑斷碣誌乾隆辛丑諸士庶重修其時廟貌嵯峨中堂外構四垂之亭右畔亦立翼室矣厥後崇德報功因舊重新者當不乏人惜湮沒不傳耳道光戊申地震中堂傾折餘則掃地以盡焉越日年己酉街民陳庇自破慳囊修葺中堂而已光緒辛巳夏四月上流邀同宗兄振聲春煙何君秋華余君上論出為勸捐共董其事中堂則繼長增高四垂亭及右畔翼室則復舊制更購瓦屋改為左畔翼室樸斲而丹雘之然後規模宏敞，神所憑依將在是矣冬十月訖工上流等為之合樂薦享而落之因記其事勒碑廟左

鰲城趙廷章拜書西霞楊春華拜撰

光緒柒年歲次辛巳陽月 日總理陳上流等仝立

<碑文 3 日本語訳>

大西門 重修 福德祠碑記

『禮』では共工(洪水の神)が天下統一を唱えたとき、その子は「后土(治水神)は中国全土を平定できる」と言った。后土は「社」として祀られ、社の崇拜は長い歴史がある。

私たちの西門福德祠は、いつ、誰に造られたのかわからない。ただ、残されている碑の断片などから乾隆辛丑(1781年)に修復されたことが分かっている。当時の外見は立派で、中堂には四垂亭の屋根が造られ、右側にも部屋が造られていた。その後も修復する人がいたが、名前は知られていない。

道光戊申(1848年)の地震で、中堂が傾き、残骸で見られなくなった。時間の経過とともに、町の人が自分たちのお金で中堂を修復した。光緒辛巳(1881年)4月、陳上流が陳振聲、陳春煙、何秋華、余上論に修復の話をして、募金を集め、中堂を高くして、四垂亭等を元の状態に修復した。また左側にも瓦屋根の部屋を造った。修復後は、規模も大きくなり、神様の居場所が確定されたようだ。10月に工事が終わり、陳上流らは完成を喜んだ。この文を碑に記し、廟の左に設置した。

鰲城の趙廷章、西霞の楊春華の協力

光緒柒年(1881年)11月吉日 總理陳上流等の共同建立

2.3 彰化元清觀

(所在地:彰化縣彰化市光華里民生路 207 號)

彰化元清觀は、1763年に創建された玉皇大帝(道教の最高神)を主神とする廟である(図7)。福建省の泉州の移民たちが造った廟であるため、泉州における廟の特有の言い方である「觀」と呼んでいる。

元清觀では、「温陵元清觀碑記」と「重修彰化元清觀記」の二つの碑に、1848年彰化地震のことが記されていた。

まず「温陵元清觀碑記」(「温陵」は泉州の別称である)は、廟の沿革を記した碑(拓本、縦 272cm、横 71cm:1898年設置)で、その中に1848年彰化地震で受けた廟の被害と修復の過程が書かれていた。なお、この碑は2006年に起こった廟の火事により5つに割れ、損壊してしまっている。しかし、拓本が残されていたため、壊れた碑の代わりとして廟の入り口右側にその拓本(印刷物)が張られていた(図8)。この拓本の後ろ側に元の壊れた碑が置かれているとの話を聞いたが、拓本が固定されているため、確認することはできなかった。

「重修彰化元清觀記」は、1987年の廟の修復の際

に記念としてこれまでの碑の修復歴について記された廟の重建碑(石碑、縦 240cm、横 87cm:1989年設置)で、その中に地震の被害と修復について書かれていた(図9)。火事の影響かどうかは不明であるが、近年造られた石碑であるにも関わらず、碑の表面が劣化し、碑文が読み難い状態となっている。



図7. 彰化元清觀

Fig.7 Yuanqing Temple in Changhua City.

(2017年2月筆者撮影)



図8. 彰化元清觀の温陵元清觀碑記

Fig.8 Historic Monument of Yuanqing Temple in Changhua City.

(2017年11月筆者撮影)

現在(2017年11月),「温陵元清觀碑記」の拓本及び「重修彰化元清觀記」の前には展示物が置かれ,碑文の一部を見ることができなくなっているが,元清觀の民芸館(歴史博物館)の館長が碑文の内容を提供してくれたため,1848年の地震について記されていることが分かった。

<碑文 4>温陵元清觀碑記

元清觀

廟建於乾隆年間職員林文濬貢生鄭模業戶黃添註阮昌張國良等倡建道光廿八年地震前進五門以及戲台崩圮邑紳議徒於邑之南偏鋪卜土築基旋因戴逆之亂不果同治丙子舉人蔡德芳職員陳元吉貢生世振治諏吉上樑倡捐興修以監生楊祥光董其事數年工未峻後貢張昭彩職員莊瓊輝再行捐修比蔡德芳通籍候經閱十星霜始告成功巍然改觀不特前殿戲台規模宏敞中後殿繼長曾高以丹雘皆輪奐一新
(以下,現在までの沿革内容のため省略)

<碑文 4 日本語訳>

元清觀

職員の林文濬,貢生の鄭模,商人の黄添註,阮昌,張國良らが提案し,乾隆年間(資料では1763年)に廟が造られた。道光廿八年(1848年)の地震で前進五門及び舞台が崩れた。地元の有力者が南側に廟を移動させようと提案した。しかし「鋪卜土築基」(不明),戴潮春の乱(1862-1865年)のためできなかった。同治丙(1866年)に舉人の蔡德芳,職員陳元吉,貢生の世振治が修復を提唱し,監生の楊祥光に頼んだが,数年かけても工事は完成に至らなかった。後貢の張昭彩,職員の莊瓊輝が,再び募金を行って修復をした。蔡德芳より人脈が良かったこともあり,十数年かけてようやく修復が完成した。前殿の舞台が広がって外見が良くなった。中後殿は奥行きが広がり,中は赤く塗られ高さも高くなって全てが新しく変わった。

<碑文 5>

重建彰化元清觀記

元清觀創建於清乾隆廿八年(西元1763年)當時士紳林文濬鄭模黃添註阮昌張國良以福省永州府七縣人士合資捐獻所建道光廿八年因地震災山門戲台損毀延至同治五年由陳元吉等發動募捐在光緒十三年方才完工規模與今日相去不多
(以下,1989年までの修復の内容のため省略)



図9. 彰化元清觀の重建彰化元清觀記

Fig.9 Reconstruction Monument of Yuanqing Temple in Changhua City.

(2017年2月筆者撮影)

<碑文 5 日本語訳>

重建彰化元清觀記

元清觀は,清乾隆二十八年(1763年)に当時の有力者の林文濬,鄭模,黄添註,阮昌,張國良,及び福建省永州府七県の人々の寄付により創建された。道光廿八年(1848年)の地震で山門舞台が損壊し,同治五年(1866年)に陳元吉等が募金を集め,光緒十三年(1887年)に修復が終わった。現在の規模とほぼ同じになった。

2.4 鹿港興安宮

(所在地:彰化縣鹿港鎮中山路89號後段)

鹿港興安宮は1684年に創建された媽祖(天上聖母)を主神とする廟で,鹿港で最も早い時期に造られた媽祖廟である(図10)。1848年の彰化地震による被

害などが記された碑は無いものの、1851年に修復が行われ、その修復後に「奠安山海」の扁額が主神の上に飾られている(図 11)。「奠安山海」は「海と山が鎮まるように」という意味であるが、ここの主神である媽祖は、航海や漁業の守護神であり、また鹿港はその名の通り港町であるため、媽祖廟の額に「山」について記されることには不自然さがある。この廟の管理者の話によると、修復の数年前に起こった1848年彰化地震が関係しているのではないかということであった。恐らくは、海だけではなく、この地を揺らした山の地震も媽祖の力で抑えてほしいという願いがこの額に込められているのではないかと思われる。



図 10. 鹿港興安宮

Fig.10 Xingan Temple in Lukang Township.
(2017年2月筆者撮影)



図 11. 鹿港興安宮の扁額

Fig.11 The tablet of Xingan Temple in Lukang Township.

(2017年2月筆者撮影)

これとは別に、この廟で配布しているパンフレットには、1798年に鹿港で発生した大地震で興安宮が被害を受け、募金によって修復を行ったことが書かれていた。しかしながら、1798年には台湾において被害地震の記録はなく(最も近い被害地震は1797年の台南における推定 M5.0 の地震)[鄭・葉(1989)], その後この地域における大地震と呼ばれる災害は1848年の彰化地震であることから、年代の記載ミスの可能性も考えられる。

2.5 芬園寶藏寺

(所在地:彰化縣芬園鄉進芬村彰南路三段 135 巷 100 號)

芬園寶藏寺は1672年に創建された観音菩薩を主神とする寺である(図 12)。寺内には観音菩薩の他、媽祖など道教の神も祀られている。

彰化市内からは距離が離れているが、この寺も1848年の彰化地震によって被害が出たことが知られている。重建碑(縦177cm, 横57cm:1850年設置と思われる)は寺の倉庫に置かれていた(図 13)。重建碑は二つあり、一つには地震の被害と修復について、もう一つには寄付者やその金額等が記されていた。

碑の設置日については、碑文の最後に1848年と記されている。しかし、碑文中に1850年に修復が終わったことが書かれているため、恐らくは修復が始まった地震直後の年代を記し、碑の設置は修復が終わった1850年頃であると思われる。また、この重建碑は土台部分が日本統治時代に追加され、1848年に修復をした黄氏の子孫が大正八年(1919年)に再び修復を行ったと記されてあった。

寄付者が書かれた文字の一部は、風化により見えなくなっていた。碑が置かれた倉庫は湿度が高く、重建碑の隣にある別の木碑には白蟻の巣ができて半分ほど崩壊しており、保管状態が悪い状況であった。

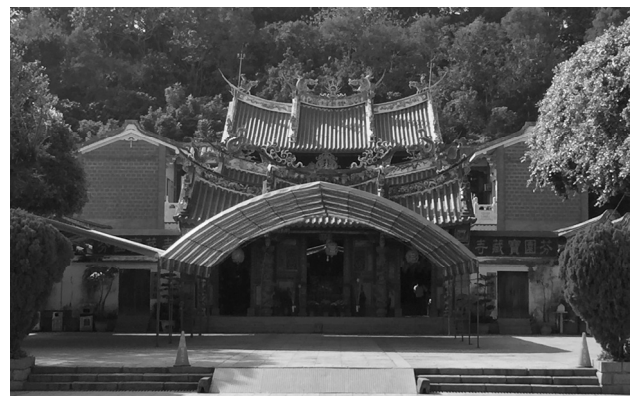


図 12. 芬園寶藏寺

Fig.12 Baozang Temple in Fenyuan Township.

(2017年2月筆者撮影)

<碑文 6>

猫羅之有寶藏寺建自雍正年間寺之建立由來舊矣前人雖有重修歷今已久棟宇傾圮楹桷朽壞兼之地震崩損所有供奉

僊祖 天上聖母神像座位僅避風雨而已道光戊申年廩生唐憲榮首事江成春張成業林媽愿張永葯張永勇

寺倡議興修重建遠近聽聞人人喜悅爰日鳩工庀材重興創建基址仍乎舊制則從新峻宇雕牆丹楹刻桷巍峨廟貌煥然改觀屆庚戌年冬月廟成完峻經營數載費千餘金皆四方衿耆各庄信士樂助喜捐共襄盛舉多而佰什少或一二雖輸金之不一咸樂善之可嘉用著義舉之芳名昭向義之姓氏登之簡策同廟宇以齊暉垂之碑碣共聲靈而赫奕茲當告峻之日爰列次鐫勒以同廟宇以示不朽云
(以下寄付者及び協力者の氏名とその内容のため省略)



図 13. 芬園寶藏寺の重建碑

Fig.13 Reconstruction Monument of Baozang Temple in Fenyuan Township.

(2017年2月筆者撮影)

＜碑文 6 日本語訳＞

猫羅にある雍正年間(1723年-1735年)に建立された寶藏寺は、歴史が長く、度々修復していたが、屋根や柱が老朽化し、さらに地震で損害を受けた。

祀られている神や天上聖母の神像の置いている場所が風と雨除けの部分のみになってしまった。道光

戊申(1848年)に廩生の唐憲榮と寺の管理者の江成春、張成業、林媽愿、張永葯、張永勇らは寺の再建を提案したところ、この話が広まって人々は喜んだ。そして、工事日程や作業人と材料を選び再建が始まった。

同じ場所に建て直し、新しい製法で豪華できれいな赤い彫刻がある柱などを造り、構造を改めた。各地のお年寄りや信者の寄付や援助で集まった千あまりのお金を使い、数年かけて庚戌年(1850年)の11月に修復が完成した。

寄付は一人百いくらか或いは少なくとも1-2円でみな異なるが、それぞれ自ら進んでお金を出した。そのためその名前を廟の碑に記し、廟と共に輝かせ長く示すことにした。

§ 3. まとめと考察

今回の調査で寺廟における1848年彰化地震の記録は、5か所の寺廟で7件見つかった(表1)。このうち4件は重建碑、2件は沿革碑で、地震の被害や修復について記されていた。残りの1件は、地震の防災祈願と思われる文字が書かれた扁額であった。

これらの碑や額の設置時期は、鹿港鎮や芬園郷の寺廟では地震発生から数年後の1850年頃であるのに対し、彰化市の寺廟では全て1880年以降である。これは、複数の碑文に記されているように彰化市で起こった戴潮春の乱の影響であると考えられる。しかし、戴潮春の乱の発生は1862-1865年であることから、乱が起こる前に寺廟の修復が終わっていてもよいはずである。恐らくは震源に近い彰化市の被害が他の地域よりも大きく、街全体の復興が遅れ、そこに戴潮春の乱が加わったことで寺廟の修復が後回しにされてしまった可能性があると思われる。

その他、鹿港の郷土誌の寺廟の紹介によると、鹿港城隍廟(彰化県鹿港鎮中山路366号)では1848年彰化地震による被害があったことが書かれていた[鹿港鎮誌纂修委員会(2000)]。調査したところ、鹿港城隍廟には1850年頃に廟の修復が行われたことが記された重建碑はあったものの、その修復の理由は明記されておらず、1848年彰化地震が関係しているかどうかは分からなかった。また、いつの地震のことを示しているのか不明であるが、過去に地震被害が起こったことが書かれた碑(重修彰化孔廟記、1978年設置)が、彰化孔子廟(彰化県彰化市孔門路30号)にあった。

表1. 1848年彰化地震の記録がある寺廟と碑

Table 1. Temples and Monuments with records of the 1848 Changhua Earthquake.

設置場所	寺廟	碑の名称	設置時期	材質	設置・保存状態
彰化縣 彰化市	彰化鎮安宮	重建鎮安宮記	1934年	木材	廟の倉庫に保存 (一部破損)
		彰邑鎮安宮三山國王廟沿革	2012年	石材	廟内の壁面に設置
	彰化西門福德祠	大西門重修福德祠碑記	1881年	木材	廟内の壁面に設置 (煤で変色)
	彰化元清觀	溫陵元清觀碑記	1898年	石材	火事により損壊 (拓本の閲覧可能)
重修彰化元清觀記		1989年	石材	廟内の壁面に設置 (表面風化)	
彰化縣 鹿港鎮	鹿港興安宮	奠安山海(扁額)	1851年	木材	廟内主神の上部に設置 (一部煤で変色)
彰化縣 芬園郷	芬園寶藏寺	寶藏寺重建碑	1850年頃	木材	寺の倉庫に保存 (虫損の恐れ有り)

古い重建碑・沿革碑などは、改築の際に移され、倉庫など一般では見ることができない場所に置かれていることがあり、まだ見つかっていない地震の記録が記された碑や文書が存在している可能性がある。今回の調査は1848年の彰化地震を対象としたため、被災地の彰化縣のみ調査を行ったが、これまで被害地震が多発している嘉義や台南地方の寺廟では、他の歴史地震のことが書かれた碑が数多く残っていることが予測される。

地震の被害を戒めとして後世に伝えることを目的とした地震記念碑は、多くが石碑であり、適切な管理をすれば長期間の維持が可能である(ただし、人目に付きやすいため、政治や思想の変化により碑文の改ざんや碑の破壊が行われる場合もある)。一方、今回調査した寺廟の修復を記録した重建碑・沿革碑では木製の碑もあり、風化により一部文字が読み取れなくなっている箇所もみられた。

彰化鎮安宮のように、古い木製の重建碑の代わりに新しい碑を設置し、その内容を伝えていく廟もあれば、芬園寶藏寺のように重建碑が倉庫に放置され、虫損などが危惧される場所もあり、碑の保存状態は寺廟により様々である。また彰化元清觀のように石碑であっても、火事などの災害により損壊してしまうこともある。

地震記念碑とは目的は異なるものの、過去の被害地震の記録が残された寺廟の重建碑・沿革碑は、歴史地震を知る貴重な史料の一つである。それらが失

われつつある台湾では、歴史地震に関連する碑の早急な調査と適切な保存維持が必要であると思われる。

謝辞

本調査では各寺廟の管理者の方々にご協力頂いた。特に彰化市役所の城市暨觀光發展課や彰化元清觀の民芸館では、資料等の収集などで大変お世話になった。また芬園寶藏寺では、寺の倉庫内の碑の調査及び撮影をお許し頂いた。投稿の際には林能成氏の助言により、内容を改善することができた。ここに記して感謝申し上げます。

対象地震:1848年(台湾)彰化地震

文献

- 曾國棟, 2003, 台灣的碑碣, 遠足文化事業有限公司, 206 pp.
- 何培夫, 2001, 臺灣碑碣的故事, 臺灣省政府, 195 pp.
- 蔣正興, 2015, 從廟宇史料回顧 1848 年彰化地震, 國立自然科學博物館館訊, 328, 6.
- 鹿港鎮誌纂修委員會, 2000, 鹿港鎮誌・宗教編, 鹿港鎮公所, 122-123.
- 塩川太郎, 2014, 1935年台湾新竹-台中地震の台中州における地震記念碑について, 歴史地震, 29, 61-70.

- 塩川太郎, 2015a, 1935 年台湾新竹-台中地震の新竹州における地震記念碑について, 歴史地震, 30, 63-74.
- 塩川太郎, 2015b, 1935 年台湾新竹-台中地震における地震記念碑 - 新竹州と台中州の違いについて -, 鷹陵史学, 41, 1-17.
- 塩川太郎, 2016, 1999 年台湾 921 大地震における地震記念碑について, 歴史地震, 31, 27-40.
- 塩川太郎, 2018, 台湾の日本統治時代における被害地震について - 台中市における 1935 年新竹-台中地震の痕跡を例として -, 修平學報, 36, 53-76.
- 鄭世楠・葉永田, 1989, 西元 1604 年至 1988 年臺灣地區地震目錄, 8-10.
- 鄭世楠・葉永田・蕭乃祺・江嘉豪, 2002, 災害地震目錄在 GIS 的建置, 中央氣象局地震測報中心 20 周年專刊, 195-211.
- 鄭世楠・江嘉豪・陳燕玲, 2012, 臺灣地區歷史地震資料的建置, 中央氣象局地震技術報告彙編, 60, 427-448.